

視察報告書

令和元年 1 月 22 日

場所 上方浮世絵館

概要

上方浮世絵とは

井原西鶴や近松門左衛門を生み出した大阪・道頓堀。そこは歌舞伎や浄瑠璃の芝居小屋が立ち並ぶ、まさに江戸時代のブロードウェイでした。華やかなエンターテインメントにスタートはつきもの。人気の役者をひと目見ようと、大勢のファンが集まり、役者を描いた浮世絵も作られました。今でも名の残る中座や角座で上演された歌舞伎芝居を描いた上方浮世絵は、江戸時代後半から明治 20 年頃まで、役者の個性そのままに描かれ歌麿や広重などの江戸浮世絵とは異なり、現代に通じる大阪の香りをとらえています。

そんな上方浮世絵を専門に展示する上方浮世絵館は、道頓堀の南側、法善寺の門前に、2001 年 4 月会館いたしました。

開館時間

11 時から 18 時まで

(入館は 17 時 30 分、ショップは 20 時まで営業)

休館日

毎週 月曜日、年末

(月曜日が祝祭日・振替休日などで休日の場合は翌日)

入館料 大人 500 円、小中学生 300 円

浮世絵摺り体験コース

料金 1500 円

(なるべく 3 名様以上で申し込みください)

所要時間

約 30 分 (一人 10 分程度)

予約体験当日 3 日前まで (先着優先)

所感

外国人観光客が予想通りに多く足を止めて見ていただくのにはもってこいの浮世絵。

浮世絵摺りを体験したが意外と難しかったが体験する事により作品により興味が持てた。

体験というシステムはどの施設にも有効なアイテムである。

松本市島立にも日本浮世絵博物館があるが移転新築される博物館との連携をすると外国人観光客がより足を止め市内の回遊性も生まれ歴史と文化を考えるとこの浮世絵は爆発的な誘客材料になる。

観光客の足の確保をして松本市博物館と日本浮世絵博物館を早く連携させ松本の誘客に努めるのが効果的である。

誠の会 若林 真一